

平成30年度 千葉県農業多面的機能発揮検討会

日 時 平成31年1月15日(火) 13:30 ~ 16:30

場 所 千葉県森林会館 5階 第1会議室

出席者 【構成員】 (敬称略 五十音順)
石井構成員、重岡構成員、千賀構成員、安原構成員、和田構成員
【職員】
農地・農村振興課長、安全農業推進課長 他
【傍聴者】
なし

質疑・意見等

【多面的機能支払交付金】

- ・ 県として、大規模農家の育成や、農地集積等の施策と併せて、もっと積極的に多面的機能支払交付金事業を活用していくべきである。

【中山間地域等直接支払交付金】

- ・ 対策期間ごとの面積の減少が顕著であるのなら、新たな対策期間に移行する際に協定を締結しなかった集落が何故締結しなかったのか、現在その農地はどのような状況であるかの確認が必要である。

【環境保全型農業直接支払交付金】

- ・ 本交付金でGAP の実施が要件化されたことに関連して、千葉県で「ちばGAP制度」が創設された。千葉県は大都市近郊に位置していることもあり、大都市の消費者からすれば、この千葉県のGAP制度はかなり期待できる取組である。
- ・ GAP を一生懸命推進しながら、その後、有機農業に取り組む方たちもいらっしやと思うので、今のところこの GAP を推進してほしいと思う。
- ・ 高齢化も進み、耕作放棄地も増えている状況ではあるが、若い人が後継者として頑張っているところもあるので、GAPの取組について勉強していかなければと思う。地域でもGAPの取組について、県で研修や指導をしていただきたいと思う。

【中山間ふるさと・水と土保全対策事業】

- ・ 農業関係科を有する高校と中山間地域の連携活動を支援する「中山間ふるさと活性化チャレンジ事業」の取組は良い。今後は、高校生だけでなく小中学生を対象にした取組の検討も行ってもらいたい。また、定年退職する小中学校の教諭を地域のリーダー的役割を果たす「ふるさと保全指導員」に勧誘してみたい。
- ・ 蹄を持つ動物の侵入を防ぐ獣害防止グレーチングの設置について、県内の獣害は深刻な状況にあるため、設置の効果検証をしっかり行ってもらい、効果があるようなら獣害防止グレーチングの普及を目指してもらいたい。